

大竹久夫教授「バイオインダストリー協会賞」受賞

工学研究科生命先端工学専攻生物化学工学領域の大竹久夫教授が、財団法人バイオインダストリー協会の「平成20年度バイオインダストリー協会賞」を受賞しました。本賞は、平成2年度に創設された有馬啓記念バイオインダストリー協会賞の趣旨を継承発展させて、平成19年度に設立されたものです。バイオサイエンス、バイオテクノロジーおよびバイオインダストリーの分野における研究・技術開発および産業化推進活動において、バイオインダストリーの健全な発展に大きな貢献をなし、または、今後の発展に大きな貢献をなすと期待される業績をあげた個人、小人数のグループまたは組織に贈られています。

今回の受賞は、大竹教授が長年取り組まれてきた微生物のリン酸代謝に関する基礎研究とリン資源リサイクル技術開発への貢献に対して授与されたものです。微生物のポリリン酸蓄積機能に着目し、資源の枯渇が懸念されている天然リン鉱石の代替物として、バイオリン鉱石と呼ばれる人工リン鉱石が製造できることを、一連の産学連携研究開発事業により実証したことが、高く評価されました。

授賞式と受賞講演は、10月15日（水）にパシフィコ横浜で開催された「バイオジャパン2008」において行われました。

（工学研究科・工学部）



大竹教授（中央）

森田清三教授「The Albert Nerken Award」受賞

工学研究科電気電子情報工学専攻原子分子操作組立領域の森田清三教授（低温センター長兼務）が10月22日（水）に The Albert Nerken Award を受賞しました。本賞は、重要な技術的課題の解決による顕著な功績に対して、American Vacuum Society（AVS：アメリカ真空学会）が授与する Professional Awards の一つであり、森田教授のような非会員も含めた世界中の研究者から毎年1名を選んで授与されますが、AVS の Professional Awards の日本人の受賞は、1994年の石丸 肇氏と2004年の高柳邦夫氏について3人目です。

今回の受賞は、森田教授が長年取り組んできた超高真空原子間力顕微鏡で個々の原子を見る（Science 1995）だけでなく、個々の原子の原子種を非破壊に識別（Nature 2007）して、選んだ特定の原子種をデザイン通りの位置に原子操作して、多元素からなる複雑なナノ構造体を室温で構築する（Nature Materials 2005, Science 2008a）ための技術開発と応用研究を行ってきた功績（Science 2008b）が、国際的に高く評価されたことによるものです。

授賞式典は、アメリカのボストンで開催された「第55回アメリカ真空学会国際シンポジウム（the 55th AVS International Symposium）」で行われ、授賞式と受賞スピーチの後で受賞記念レセプションも行われました。受賞式典の前日には受賞記念講演と元AVS会長（1987年）のPaul H.Holloway先生による約1時間の受賞インタビューが行われました。この受賞インタビューはアメリカ真空学会の歴史的資料として、音声インタビューと文書化したものの両方が歴史資料館に保存されWebで公開される予定です。

（工学研究科・工学部）



受賞後の受賞スピーチを行う森田教授